



たすく

t a s u k u

Vol.
2

2026年
2月号

入退院支援 センター



contents

- メディカルアカデミー
「糖尿病」
- フォーカス メディカルワーカー
「薬剤師」
- クローズアップ! 施設案内ガイド
「薬剤室」
- お手軽! おすすめレシピ
- ピックアップ! みんなの声
- たすくReport

患者さんと家族の不安や初めてをサポート 入退院支援センター

2025年10月に「入退院支援センター」を開設しました。患者さんやご家族が、入院、退院、その後の在宅まで安心して療養生活を送れるように、看護師、社会福祉士、薬剤師など多職種が協力してサポートしています。より良い支援をめざす当センターの取り組みについてご紹介します。



profile

(左) 社会福祉士 鈴木 康代 病院以外での勤務を経て2010年に西尾市民病院に入職し、病院ソーシャルワーカーに。／(中) 看護師 米津 恵美子 1990年に西尾市民病院に入職。入院支援に関わり今年で6年目を迎える。／(右) 看護師 三矢 光子 1993年に西尾市民病院に入職。2016年から退院支援業務を行う。

入院生活や退院後の不安を受け止め解決へと導く

病気やけがで入院をして治療することになると、入院生活のこと、治療費などの経済的なこと、退院後の生活のことなど、さまざまな不安を抱える患者さんやご家族が多くいらつしやいます。当センターではそのような不安を少しでも軽減できるように、入院支援看護師、退院支援

看護師、社会福祉士が中心となって、主治医や病棟と連携し、入院前から患者さんやご家族と密に関わっています。また、退院された後も、地域のケアマネージャーや訪問看護師とも連絡を取り、必要な医療や福祉を受けられるように支援しています。

入院前に看護師が面談し 情報は医師や病棟と共有

入院が決定した患者さんには、入院前の外来から入院支援看護師が

関わることで、スムーズに入院生活がスタートできるよう支援しています。面談では、入院の日時や入院生活で用意していただく物、病棟での過ごし方のほか、外来での情報を引き継ぎ、クリニカルパス（診療計画表）に沿って検査の内容や入院中の治療の経過についてお話しして

います。必要に応じて薬剤師も同席し、お薬についての説明も行います。これらに加えて、患者さんやご家族が抱える不安や気になることなども丁寧にお聞きし、その内容をカルテに残すことで、主治医や手術を担当する医師やスタッフ、病棟の看護師などと共有し、入院中のサポートに役立てています。

看護師と社会福祉士が連携し退院に向けて対応

退院支援では、治療を終えた患者さんがスムーズに退院できるように、退院支援看護師や社会福祉士が入院中から関わっていきます。緊急入院の患者さんへも、必要に応じて病棟からの依頼を受け支援を行っています。退院前の面談では、患者さんやご家族が退院後の生活において何を心配されているかを中心に、医療的な不安は退院支援看護師が、社会的な問題は社会福祉士が中心となってお聞きし、連携して対応しています。療養病院や高齢者施設が退院先になる場合は、医療依存度や社会的な不

安要素をもとに総合的に考え、その方にとって一番良い選択ができるようサポートしています。患者さんご家族の思いが一致しない場合は、患者さんの気持ち優先するとともにご家族の要望も踏まえて、面談を繰り返しながら、双方が納得しどちらかに負担が偏らないようまとめることに努めています。家族関係が複雑な方や独居の方、経済的な問題を抱える方については、社会福祉士が専門的な知識を駆使し、社会的および心理的アプローチを重ねることで、必要な支援や制度につなげていきます。

入院中から退院後を見据えて多職種連携でサポート

顔の見える関係で、多職種連携を行い、住み慣れた場所で不安なく生活が送れることをめざしてサポートします。退院後もお困りのことがあればご相談ください。





多職種からなる入退院支援センターでは、入院や退院についてあらゆる角度から患者さんとご家族をサポートしています

入退院支援センター

入院前（外来）

医師

地域の急性期病院として二次救急をはじめ、たくさんの患者さんを受け入れ、正確な診断、綿密な治療計画のもと、適切な入院加療を行っています。入院中は患者さんの状態を把握し、回復具合を見ながら、退院の時期を見極めていきます。

看護師

【入院説明】 外来では患者さんと看護師が面と向かってお話をする機会も限られるため、入院時には面談の時間を設け、入院に関する連絡事項のほか、入院生活における患者さんのご希望や不安なことなどを看護師がお聞きしています。世間話を交えた和気あいあいとした雰囲気、気持ちを軽くして入院していただけるようにしています。

【病棟看護】 入院中は各病棟に看護師と社会福祉士を一人ずつ配置し、退院に向けた支援をしています。入院生活の様子を見ながら、患者さんやご家族とコミュニケーションを取っています。

【退院サポート】 退院後も困らず療養生活を送れるように入院前から退院を見据え、院内だけではなく地域の介護や福祉関連の事業所とも連携し、適切な時期に退院できるようにしています。

薬剤師

入院や手術が決まった患者さんの薬に関わる全般を担当し、周術期に必要な薬の情報などを提供。以前から飲んでる薬やアレルギーについてはカルテで共有しています。

相談窓口

入院説明の際に、患者さんやご家族からこれまでの入院中に感じたことや病院に関するご意見などがあるときは、相談窓口の担当者がお聞きし迅速に対応しています。

地域のケアマネジャー

病院の中だけでは解決が難しい複雑な背景がある患者さんは、最適な介護につなげる専門家である地域のケアマネジャーと協力し、包括的な支援に取り組んでいます。

社会福祉士

医療従事者とは違った福祉のプロの視点で、療養中の悩み、経済的な問題の解決、社会復帰や復職に必要な福祉制度やサービスの紹介・活用をアドバイスしています。患者さんやご家族と同じ目線で、知識と経験を生かした支援をしています。

患者さんの生活歴を尊重し寄り添う支援をめざす

ご本人にとって入院や病気という望ましくない状況に患者さんは置かれているということを忘れず、患者さんの生活歴を尊重し、杓子定規ではない寄り添う支援を心がけています。

アットホームな病院 悩み事は気軽に相談を

入院や手術が決まると不安になる方も多いと思いますが、アットホームな病院ですので、安心してお越しく下さい。気になることはなんでも看護師に話してくださいね。

糖尿病

私が
解説
します!



内分泌・糖尿病内科 医長
川久保 充裕

2010年香川大学医学部卒業。2019年より西尾市民病院で勤務。出身は安城市。趣味は旅行や写真撮影。さらに鉄道から飛行機までと乗り物全般と幅広く、西尾の抹茶巡りも。内分泌代謝・糖尿病・甲状腺の専門家として多くの患者に向き合うと同時に、日本DMAT隊員としても活動中。

「糖尿病」とは？

糖尿病は、膵臓から分泌される血糖値を下げる作用を持つ唯一のホルモンであるインスリンの量が減ってしまったり、何らかの原因でインスリンが効きにくくなったりして、血糖値が高くなる病気です。血糖値が高い状態が続くと、自覚症状として口が乾く、多尿、体重減少などを感じる方もいますが、症状がない方も多いです。しかしながら、放置すると心筋梗塞や脳梗塞、腎不全といった重大な病気につながる可能性もあるため、定期的に健康診断を受け、早期に発見することが望ましいです。

糖尿病は、血糖値と数カ月間の血糖変動を平均化したヘモグロビンエーワンシー(HbA1c)の数値などをもとに診断をします。糖尿病と診断された後に、インスリンの分泌能力、合併症の有無、生活習慣の聞き取りなどを踏まえて、一人ひとりに応じた治療を提案していきます。

糖尿病治療の最終目標は血糖値を下げるのではなく、禁煙なども含めた生活習慣を改善し、合併症を予防し、糖尿病のない人と変わらない生活を送ることです。

当院では糖尿病の専門知識がある糖尿病療養指導士の資格を持った多職種チームで皆様のサポートしてまいります。

3つの深掘り

1

糖尿病は誰もがなり得る病気

糖尿病は、遺伝的要因と環境要因が原因で発症する病気で、誰もがなり得る病気です。糖尿病の方が、自分を責めたり周りに恥じたりする必要はありません。また糖尿病だからできないことはありません。糖尿病と上手につき合っていく方法を探していきましょう。

2

点ではなく線で血糖値を見る時代へ

これまで血糖値は採血や指から血を採って測定する方法しかありませんでしたが、現在は皮下の糖濃度を測定することで、血糖値を点ではなく線で連続的な変動として見るできるようになりました。当院では診察室で結果を患者さんと一緒に見ながら、一人ひとりに合わせた最善の治療を提供しています。

3

多職種から構成する糖尿病チームの活動について

医師のみならず、看護師・管理栄養士・理学療法士・薬剤師など専門職で構成した、西尾市民病院糖尿病チームでは、公式のInstagram(@nishiodmteam)を開設して、糖尿病についての知識や情報を配信しています。さらに、年1回世界糖尿病デーに合わせてイベントを開催しました。本号裏表紙・たすくReportをご覧ください。



一緒に結果を見ながら治療を考えていきます



フォーカス
FOCUS

メディカルワーカー

西尾市民病院を支えるスタッフをご紹介します

【 薬 剤 師 】



薬剤師の仕事は、調剤や病棟での薬剤管理、患者さんへの説明など多岐にわたります。扱う薬も一般的なお薬から抗がん剤まで幅広く、それらを正確に安全に患者さんにお届けしています。

高須 美玖 (左) / 2020年4月入職

入院中はもちろん退院後も患者さんが安心してお薬を飲み続けられるように、患者さんに合わせた丁寧な説明や薬の管理方法の見直しを心がけています。

荒井 実希子 (右) / 2025年4月入職

同じ病気でも患者さんの背景によって判断が変わってくるため、目の前の患者さんのためにはどうすることが一番良いかを考え行動していきたいです。



薬を棚から取り出して集める際のミスを防ぐために PDA (携帯情報端末) を使用しています

安全に治療ができるように薬学的な観点からサポート
薬剤師は、院内で処方されるお薬全般が正しく適切に使用されるように医師からの処方箋に基づく調剤、入院患者さんの点滴の管理などを担っています。被ばくのリスクがある抗がん剤は安全キャビネットの中で作業をするなど環境を整え、中心静脈栄養に使用する高力ロリー輸液は、無菌室で菌や埃が入らないように徹底しています。抗がん剤はがん薬物療法認定薬剤師が、中心静脈栄養はNST(栄養サポートチーム)専門療養士が中心となり業務にあたっています。また、薬剤室には糖尿病

療養指導士資格取得薬剤師、感染制御認定薬剤師など資格を持つ薬剤師が在籍しています。

病棟では一人の患者さんや一人の薬剤師が担当し、入院中のあらゆるお薬に関わり、さらに外来では、吸入薬やインスリン注射など操作が必要なお薬を正しく使えるよう実演を交えて説明しています。治療やお薬に対する患者さんの理解度はさまざまです。私たちは、栄養サポートチームや緩和ケアチームにも所属し、薬学的な観点で患者さんの治療をサポートしています。お薬についてわからないことがあれば気軽に相談ください。



患者さんの状況や薬に関する知識を共有し安全な調剤に努めています

CLOSE-UP!

クローズアップ!

施設案内 ガイド

取り違いや調剤のミスの撲滅をめざす
精密機器を駆使した「調剤の現場」

「私たちがご紹介します!」



左から薬剤師 高須 美玖 / 荒井 実希子

普段、患者さんからなかなか見えない
院内のリアルを紹介します

正確に薬を届けるため

先端機器を活用



処方箋の内容に合わせて注射薬を自動でピックアップするアンブルピッカー。調剤の効率化は患者さんと接する時間を増やすことにもつながっています

必要な薬品の管理には医薬品自動保管システムに加えて、冷所保存の必要が少ないときも、正確な調剤ができるので安心です。

このような機械の導入の最も大きなメリットは、人為的なミスの低減ですが、同時に、対物業務を機械に任せることでできた時間を、病棟業務など対人業務に割くことができ、より良い薬物治療を実現できます。さらに、安全面の強化や医療費の削減のほか、外来での待ち時間の短縮にもつながっています。

安全・安心の治療の実現とともに
待ち時間の短縮や医療費削減にも効果が

薬剤室では、さまざまな先端機器を導入し、日々、正確な調剤および適切な処方、お薬の取り間違い防止に努めています。注射薬については、患者さんごとに自動で取り揃えることができる「アンブルピッカー」を活用しています。いろいろな種類の薬を保管している機械に処方箋を読み取らせ、患者さんごとに取り出して必要な注射薬を

揃えていきます。お薬を分包する際には、「全自動錠剤分包機」を使用します。これは、たくさんの薬を飲んだり自分の手で薬を出しにくかったりする人に対して、複数の薬を1つの袋にまとめる際に、機械の中に薬を入れておく自動で処方に合わせて分包してくれる機械です。粉薬も同じように、

複数の薬は全自動分包機を使用し1回ごとに袋で小分け。服薬時の種類・個数間違いを防ぐのに有効です



鶏胸肉の中華風南蛮



毎日の「おいしく」を楽しみたい!
お手軽!

おすすめ レシピ

健康を意識した食材の豆知識と、
手軽に作れるレシピを
栄養士目線でご紹介します。

鶏胸肉は、高たんぱく・低脂肪
で脂質を控えたい方や筋肉づくり
を意識した食事にぴったりの食
材。ビタミンB群も多く、疲労回復
にも役立ちます。

【材料】2人分

鶏胸肉(皮なし)
……1/2枚(約140g)
ベビーリーフ……適量
オリーブオイル……適量
小麦粉……適量

A(下味用)

砂糖……小さじ1/2
醤油……小さじ1/2

B(タレ)

砂糖……小さじ1
醤油……小さじ1

B(タレ)

酢……小さじ1
すりおろしにんにく……小さじ1/2弱
すりおろし生姜……小さじ1/2弱
鶏ガラスープの素……小さじ1/4

【栄養価】1人分

エネルギー:190kcal
たんぱく質:17.6g 塩分:0.81g

Point

【調理のポイント】

肉の繊維を断ち切ることで
加熱してもやわらかく、下味を
つけることで塩分を抑えられま
す。酢の酸味と生姜・にんにく
の香りが食欲を引き立て、オ
リーブオイルが風味も良く、ヘル
シーに楽しめる一品です。

【作り方】

- 1 鶏胸肉は繊維を断ち切るようにそぎ切りにし、Aの調味料を加えてよくもみ込み、30分ほど置く
- 2 ①に小麦粉をまぶし、オリーブオイルを引いたフライパンを熱して中火で両面を焼く
- 3 火が通ったらBの調味料を加え、全体にからめながら水分をとばす
- 4 器にベビーリーフを敷き、③を盛りつける

Pick-up!



ピックアップ! みんなの声

当院に通院・入院されて
いらっしゃる患者さんから
いただいた貴重なご意見
をご紹介します。

voice no.02

車イス用トイレの
鏡が見えにくい
車イスを使っていますが、
トイレの鏡を
見えやすくしてほしいです。

車イス用トイレの鏡が見えにくくて
不便だ、というご意見をいただきました。

answer

「手の洗い方のチラシ」の位置をずらし、
鏡が見やすいようにしました。

この度はご意見をいただき、ありがとうございました。
車イスをご利用の際、ご不便をおかけして申し訳ありませ
んでした。確認したところ、ご指摘のとおり車イスに座った
状態では「手の洗い方のチラシ」が支障となり、鏡が見え
ない状況でありました。そのため、院内の車イス用トイレ
をすべて確認し、同様の状況のトイレについてはチラシの
位置をずらし、鏡が見やすいようにしました。今後も利用
者目線に立った病院運営を心がけてまいります。

皆様のご意見を反映し、より良い院内の環境づくりに努めます。
院内に投書箱を設置しておりますので、ぜひご意見をお聞かせください。

たすく 糖尿病デーイベントを Report 開催しました

世界保健機関 (WHO) が定めた「世界糖尿病デー」(11月14日)に合わせ、11月17日(月)に西尾市民病院「糖尿病デーイベント」を西尾市民げんきプラザで開催しました。医師と理学療法士による講演や、ブースを設けて自宅でできる運動療法や、糖尿病足病変のセルフチェック法、食事療法などをお伝えし、糖尿病の正しい知識を広め、予防を推進しました。



西尾市観光協会のマスコットキャラクター「まーちゃ」もイベントに参加し、糖尿病と一緒に学んだ。今回のイベントをきっかけに、西尾市民げんきプラザに初めて訪れる方も多かった。

DATA

【日時】令和7年11月17日(月)
午後1時から3時まで

【場所】西尾市民げんきプラザ



各ブースで専門スタッフに直接相談ができる場も用意。参加者からは「多方面から糖尿病という病気や、予防について知ることができて良かった」との声が聞けた。糖尿病について学べる、とても満足度の高いイベントとなった。



当院の内分泌・糖尿病内科の川久保充裕医師が糖尿病と運動に関する講演を行った。参加者から「先生の話が楽しくメモを取れば良かった」「実技もあって良かった」「やっぱり運動をしなくちゃな、と改めて思った」と感想があった。

外来糖尿病教室を開催しています!

毎月1回、原則第2水曜日に糖尿病にまつわる講演会を行っています。当院通院や糖尿病でない方にも幅広く聞いていただける会となっておりますので、ぜひご参加ください。また、西尾市民病院糖尿病チームでは、公式のInstagram (@nishiodmteam) を開設していますので、フォローお待ちしております。



Instagram

